

## ゼネコンアンケート結果について

## 1.アンケート実施概要

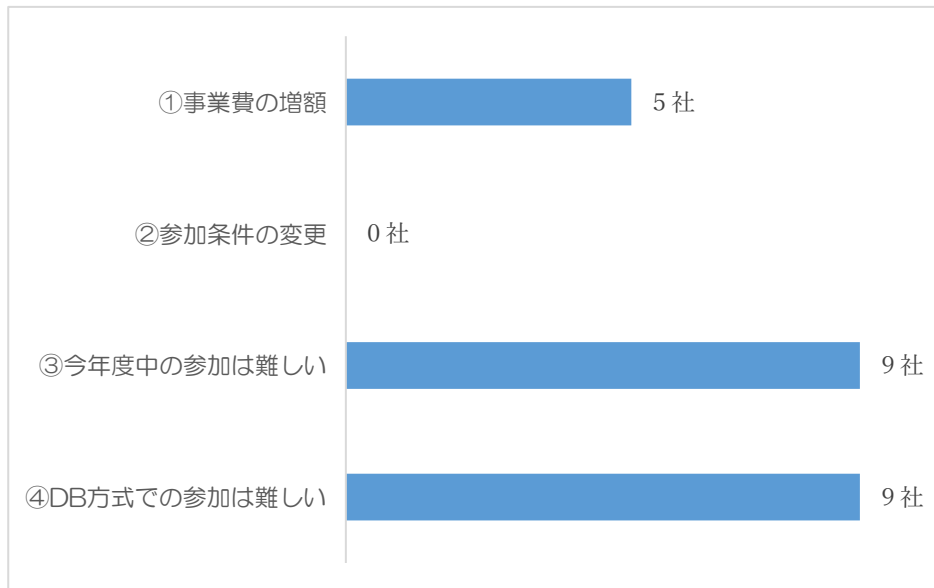
デザインビルド方式での事業再開の可能性を探るため、以下の通りゼネコン各社へアンケートを実施した。

アンケート期間	令和5年9月25日（月）～9月29日（金）
アンケート対象	ゼネコン14社
回答率	12社/14社（85.7%）

## 2.集計結果

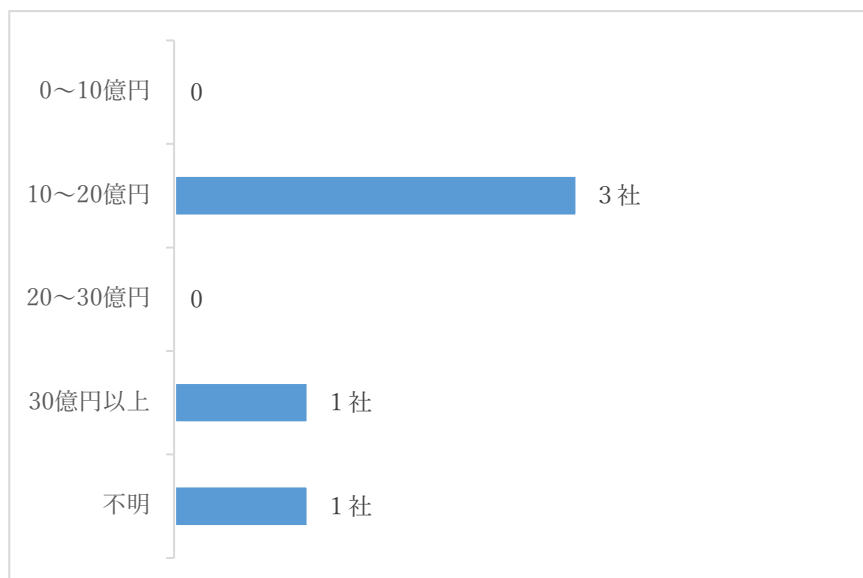
問1.八千代市新庁舎建設工事をDB方式にて今年度中に再公告となった場合、どのような条件であれば御社の参加の可能性はありますか？（複数回答可）

		①事業費の増額	②参加条件の変更	③今年度中の参加は難しい	④DB方式での参加は難しい
1	A社			○	○
2	B社	○			
3	C社	○		○	○
4	D社	○		○	○
5	E社	○		○	○
6	F社			○	
7	G社				○
8	H社			○	
9	I社				○
10	J社			○	○
11	K社	○		○	○
12	L社			○	○
集 計		5/12	0/12	9/12	9/12



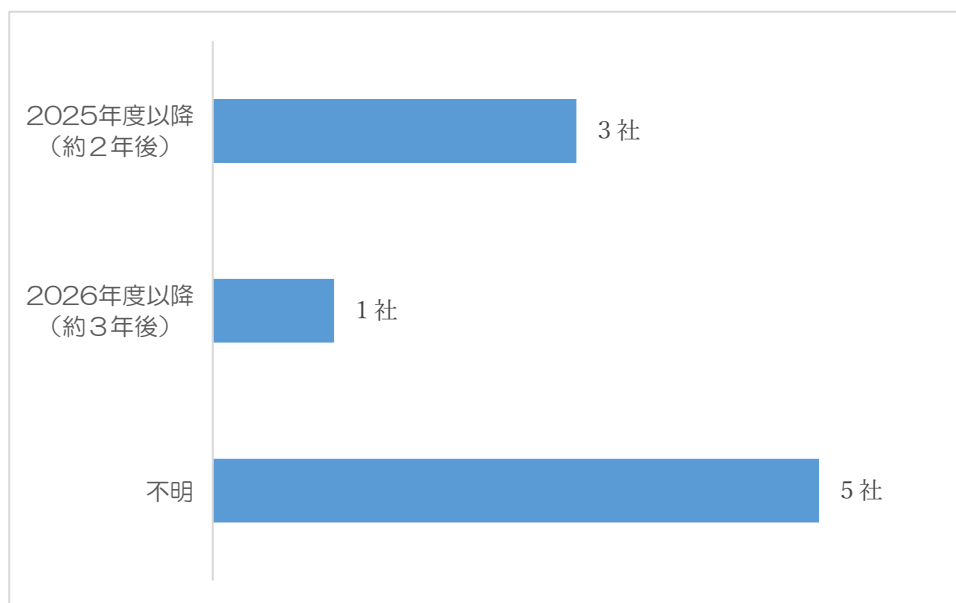
「①事業費の増額」と回答した割合は41.7%（5社／12社）, 「②参加条件の変更」と回答した割合は0%（0社／12社）, 「③今年度中の参加は難しい」「④DB方式での参加は難しい」と回答した割合は75%（9社／12社）となった。

**問2.令和5年6月の公告時点で予定価格を8,645,868,000円としておりましたが、現時点で不足金額はどの程度と試算しておられるでしょうか？（問1で①と回答した事業者のみ）**



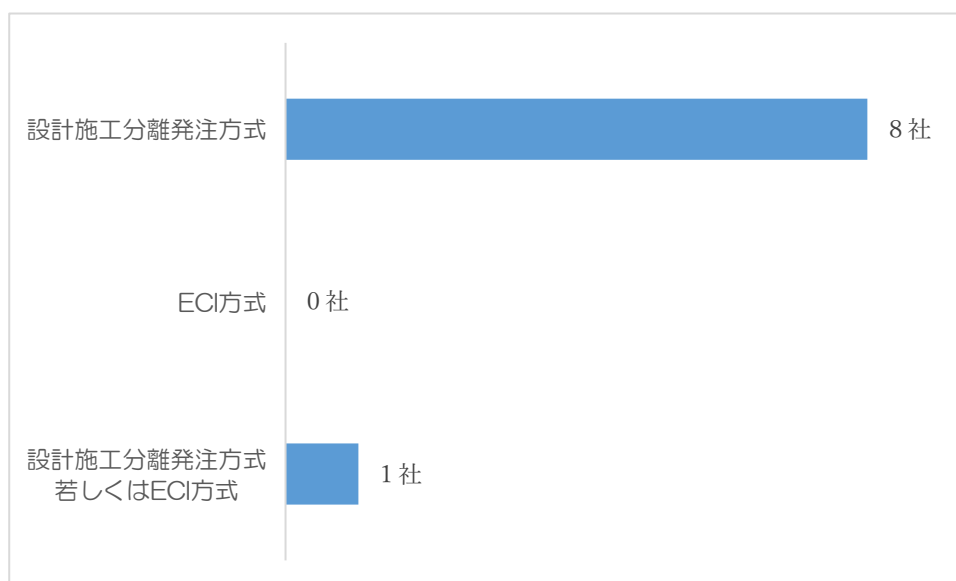
問1で「事業費の増額」と答えた企業5社に伺った結果、「10~20億円」の範囲内と類推できる回答が3社と最も多く、次いで「30億円以上」と回答した企業が1社、「不明」と回答した企業が1社となった。

問 4.発注時期がいつであれば DB 方式での本事業への参加は可能ですか？（問 1 で③と回答した事業者のみ）



問 1 で「今年度中の参加は難しい」と答えた企業9社に伺った結果、「不明」と回答した企業が5社と最も多く、次いで「2025年度以降」と回答した企業が3社、「2026年度以降」と回答した企業が1社となった。

問 5.どのような事業手法であれば、本事業への参加は可能ですか？（問 1 で④と回答した事業者のみ）



問 1 で「DB 方式での参加は難しい」と答えた企業9社に伺った結果、「設計施工分離発注方式」と回答した企業が8社と最も多く、次いで「設計施工分離発注方式若しくは ECI 方式」と回答した企業が1社となった。

### 3.アンケート結果に対する考察

問1では、「今年度中の参加は難しい」、「デザインビルド方式での参加は難しい」という回答が75%を占めた。このことから、今年度中にDB方式にて再公告をしても事業者の参加の可能性が低いことが伺える。

問1で「事業費の増額」と回答した企業は5社、その内「事業費の増額」のみの回答をした企業は1社であったことから、事業費を増額して今年度中に再公告を行ったとしても、競争性を確保した事業者選定を実施することは困難と考える。

問4では、「2025年度以降」と回答した企業は9社中3社であり、最短で2年後の発注となるが、「不明」と回答した企業が9社中5社と最も多いことから、本当に2年後に発注できるかは疑わしいと言わざるを得ない。

問5では、「設計施工分離発注方式」と回答した企業は9社中8社であり、「設計施工分離発注方式若しくはECI方式」と回答した企業は9社中1社であったことから、本アンケートに回答していただいた企業の多くが「設計施工分離発注方式」を望んでいることが伺える。

以上のことから、デザインビルド方式によって今年度中に再公告することは困難であると考えられる。また、本アンケートに回答していただいた企業の多くが「設計施工分離発注方式」を望んでいることから、「設計施工分離発注方式」にて事業を再開することが、事業を早期に進めることが出来る可能性が一番高いと考える。